

## 協同のひろば

# 協同総研 九州・山口地区会員の集い in 長崎

(2001.8.4 長崎大学経済学部)

吉田省三 (長崎大学経済学部教授)



1998年夏から始まった協同総研九州・山口地区会員の集いは、今年で4回目を迎えた。

今年は、長崎県高齢協準備会が開いた講演会(8月3日)にあわせ8月4日長崎での開催となった。東京から島村博主任研究員が、九州各県から会員、労働者協同組合の組合員、学生など会員・非会員あわせて20数名が参加した。

集いは阿部会員の司会ですすめられ、参加者の自己紹介に続いて以下の3本の報告と議論が行われた。3本の報告の概要と感想を述べる(なお竹森報告は別稿が予定されている)。

1. 「協同総研の今日の課題をめぐって『協同労働のための協同組合法』の運動を中心に」島村博(協同総合研究所主任研究員)
2. 「九州地方の労協運動について」竹森鋼(センター事業団九州事業本部長)
3. 「長崎県高齢協 設立準備の経過と課題」吉田省三(長崎大学)

「協同総研の今日の課題をめぐって 「協同労働のための協同組合法」の運動を中心に」

島村博(協同総合研究所主任研究員)

協同労働の協同組合法の成立のためのロビー活動について詳しい報告があった。各政党、協同組合および労働組合のナショナルセンター、旧労働省、旧厚生省などへ働きかけとそれぞれの対応が紹介された。ILOの「協同組合の促進」勧告の検討という国際的動きと連動させた立法化がこれからの課題とされた。

議会、役所対策では法律の制定がかなり具体化してきたという印象を受けた。しかし法案の成立に向けて他部門の協同組合の積極的な協力が得られないのは残念という気がする。

質疑では、最近九州地区で放映されたNHKの番組「企業組合を利用した仕事おこしの紹介」について質問があり、企業組合の利用とその限界が労協との比較で検討された。

「九州地方の労協運動について」竹森鋼(センター事業団九州事業本部長)

九州ブロック第3次新三ヵ年計画に基づき、九州の事業所、地域福祉事業所ごとの説明があった。九州ブロックでは、主として生協、農協の物流・食品加工の業務、病院の清掃・売店業務、建設の事業を行っている。地域福祉事業所は、2001年度から3



事業所が増えた。既設の地域福祉事業所が「独立」、有限会社化するという問題も起きている。

三カ年計画は、2000年度を基準として2001年度113%、2001年度174%、2003年度241%という事業高を見込んでいる。

その後、各県の参加者から報告が行われた。大分から、ヘルパー講座受講者による地域福祉事業所の新設(日田・虹の家)、ニコニコ生活村の高齢協への移行の構想(三重町)、自交総連の規制撤廃とタクシードライバー法を制定する活動など、鹿児島から、職業訓練校から依頼を受けたヘルパー講座の開催、スチューデント・ワーカーズコープによる「仕事おこしハンドブック」の作成など、沖縄から、名護市での配食事業の開始と市の補助などの報告があった。十分な質疑の時間を取れないのが残念だった。

「長崎県高齢協 設立準備の経過と課題」吉田省三(長崎大学)

長崎で高齢者協同組合を設立する運動は1995年から始められた。しかし準備会の事務局を担っていたセンター事業団長崎出張所長の退任、事業団の長崎での事業上の困難が原因で'98年ごろで中断していた。現在の準備会は再建されたもので、2000年末から準備され2001年4月に最初の呼びかけ人会を開き、秋の設立総会をめざして活動している。

準備会の最初の事業として8月3日に「一番ヶ瀬康子講演会 人生100年最後は一週間」を開いた。ビデオによる高齢協の紹介のために「広がる輪の中へ 飛躍する高

齢協」も準備してもらった。参加者は約200名であったが、準備会がたてた目標には届かなかった。参加者のひとりには「何年も前から設立を待っていたのになかなか設立されない」という声を残している。このように高齢協への期待は高い。

これから準備会が取り組むべき課題の一つに、生協との協同による高齢協の設立という問題の解決がある。今回の高齢協の設立準備は、生協からの働きかけがきっかけとなっている。現在は多くの生協は、福祉活動、福祉事業に取り組むようになっている。日本生協連「生協の家事援助活動と食事会・配食活動調査報告」などによりその概要を知ることができる。生協の福祉事業は、生協本体の事業としてあるいは新しく生協を設立して行われている。しかし、労協と生協が協同で福祉活動・事業に取り組んだ例はない。ぜひ今回の実験を成功させたい。

集いの今後の運営について、九州北部だけでなく南部でも開催すること、毎年1回の集いに加え随時研究会を開催していくことなどが提案された。参加者の中から協同総研への加入申し込みがあった。研究会のあとは懇親会を持ち今回のつどいを閉じた。

